

研究タイトル:

18-20世紀初頭のロシアイコン研究



氏名: 宮崎衣澄 / MIYAZAKI Izumi E-mail: i-miyazaki@nc-toyama.ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(言語文化学)

所属学会・協会: 日本ロシア文学会、美術史学会、ロシア語教育研究会

キーワード: ロシアイコン、ロシア正教会、古儀式派

技術相談
提供可能技術:

- ・ロシアイコンの調査
- ・ロシア語教育
- ・

研究内容: ロシア正教古儀式派のイコン研究

ロシアイコンは、アンドレイ・ルブリョフに代表されるように14,15世紀の古いイコンに価値が見いだされ、従来研究もこれらの時代のイコンが中心であった。一方18-20世紀はイコンが大衆化した時代である。修道院のみならず、町のイコン工房においても庶民の生活に根差したイコンが多く制作されたため、芸術的価値もあまり見出されていなかった。しかし近年ロシア正教や正教文化に関する興味の高まりにより、18-20世紀に属する比較的新しい時代のロシアイコンも注目されるようになってきた。中でも私は古儀式派のイコンを中心に研究をおこなっている。古儀式派とは、17世紀中期にロシア正教総主教ニコンが行った典礼の改革に反対し、従来のロシア正教の典礼方法をまもり、生活習慣においても伝統を保持しようとした流派である。イコンにおいては、古儀式派は当時国家教会で優勢であった、西欧画の影響を受けたアカデミズム様式のイコンに反対し、ストロガノフ派など伝統的なロシアイコン流派を受け継ぐことを目指した。モスクワやペテルブルグをはじめとする都市の商人階層には古儀式派信徒が多く存在しており、熱心に古いイコンを蒐集した。これら古儀式派のイコンはトレチャコフ美術館をはじめ、現在ロシアの美術館が保有するイコン・コレクションの基礎を形成しているものもある。ロシア内外の美術館等で古儀式派イコンを調査・分析し、古儀式派イコンの特徴や正教イコンとの違い、古儀式派のイコン流派の研究を行っている。

また現存するロシアイコンの多くが18-20世紀に属しており、日本各地にもイコンを所蔵する美術館がある。日本の美術館においても、ロシアイコンの調査研究を行っている。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	